

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター にじいろキッズらいふ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 6日		～ 令和 6年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54人	(回答者数) 26人
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 6日		～ 令和 6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数) 17人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもや保護者の思いを大切に『子どもにとって最善の利益』を優先する観点で、個別支援計画の作成を行っています。	子どもひとりひとりのアセスメントを、専門職も含め複数でそれぞれ行い、関わる職員全員での関係者会議で子どもの育ちや次の目標について話し合い、支援の共有を図っています。また、保護者の方には、支援会議で計画や支援方法等、わかりやすい説明を心がけています。	職員が権利擁護の視点を持ち、にじいろの支援で大切にしている事をしっかりと理解し支援に努められるよう関係者会議の場を大切にまいります。また、職員が変わっても専門性が担保できるよう研修等の工夫に努めます。
2	子どもにとって最善の支援を提供したいと思う職員が多く、専門性の高い支援の提供ができています。	日々の活動の中でアセスメントし、専門職の見立ての共有も大切にし、チームで支援に努めており、支援に迷ったり悩んだときは、すぐに相談できるため、独りよがりな支援の防止に努めています。	心揺さぶられる活動を組み立てられるよう、『遊び』に関する研修などへの参加を促し、専門性を担保しつつ、お子様が心から楽しく充実した日々を過ごす中で、健やかに成長できる環境を提供できるよう努めます。
3	保護者の方々との細やかな情報交換の時間を大切にしています。	お子様の思い、ご家族の思いや潜在的な思いに寄り添い信頼関係を気付けるよう務めています。ご家族が抱く不安や困り感を相談しやすいような雰囲気づくりにも努めています。	お子様の小さな成長も見逃さず、保護者の方々とも共有し喜び合えるようコミュニケーションの時間を大切に、安心安全に子育てでき、相談しやすいよう信頼関係の構築に努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	センターとして国の示す配置基準以上に配置を行い、適正な人員配置を行っていますが、クラスの人数や子どもの状態等により、職員の配置に関する項目に対し、職員や保護者の『いいえ』の回答がみられました。	個別の支援が必要になった時に、職員のゆとりが不足する印象があります。また、当番や臨時の先生の出勤時間等で、朝夕の送迎の際に職員が不足しているように感じられるようです。	突発的な個別対応が生じたときには、引き続きクラスや部署を越えた協力体制をとることで、フォローや工夫を行います。
2	個別対応できる部屋の確保について職員より『いいえ』の回答が見られました。	センターのため部屋の数やスペースは十分ですが、突発的に個別で、目を離さずに子どもの個別のスペースを確保したい時に不足を感じるようです。	恒常的、突発的に支援の中で個室での対応が必要なかどうかの判断は専門職も含めチームで検討し、子どもにとって最善の環境配慮を引き続き考えてまいります。
3	保護者やきょうだいへの支援に関する項目で保護者の方の評価に複数『わからない』『いいえ』との回答がありました。	保護者同士の交流の場であるマンパワーや療育ハンズにまだ参加されていない、知らないという入園したばかりの保護者の方々が多かったようです。また、きょうだい支援としてご相談に乗ることが多くありますが、イベントの開催はないため『わからない』に記入されたのだと思います。	保護者の方にどんなサポートなどあるのか、知っていただき選んで利用していただけるよう、わかりやすく伝える工夫が必要と感じました。また、きょうだい支援については、今後検討していきたいと思っております。